家族愛の授業

新資料を使った取り組み

加藤 宣行

1．資料について

本資料は，『ゆたかな心』３年生版に収録されている，「お母さん，かぜでねこむ」という，ちびまる子ちゃんの資料である。

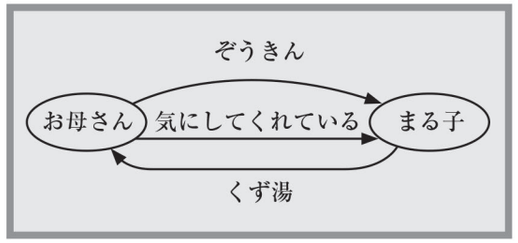
2．本時のポイント

①家族のよさを考える。
②ちびまる子ちゃんに描かれている家族像に照らし合わせて家族のよさを見つめなおす。
③見つけた家族のよさと，導入で考えた家族のよさを照らし合わせ，共通するものを見つけ出す。
④一般化された家族のよさと自分の家族を重ね合わせ，実感を深める。
⑤今日の授業の感想，発見，今後の見通しを書くことで事後につなげ，実践化を図る。

3．授業の実際

（1）資料名 「お母さん，かぜでねこむ」
『ゆたかな心』光文書院
（2）内容項目　4－（3）家族愛
（3）本時の展開

①家族のよさってどんなことだと思いますか。
・お兄ちゃんがいつも抱っこしてくれる。
・色々なところに遊びに連れて行ってくれる。
・助け合って生きている。
・話を聞いてもらえる。
・ご飯を作ってくれる。
・応援してくれる。
・いつもいっしょ。
②まる子ちゃんの家族のよさを考えながらお話を読みましょう。（読む）さあ，まる子ちゃんの家族はいい家族でしょうか？
・いい家族ではない。
○どうしてですか。
・まる子はお母さんの気持ちに気づいていないから。
・あとからいい家族になった。
※このような反応が出たのは，板書に次のように書いたからであろう。



※このように図式化して書くことにより，子どもたちは自然にお母さんとまる子の関係について深く考えるようになる。
・お母さんはまる子のことを大切に思っているけれど，まる子は気づいていない。
○なるほど，お母さんはぞうきんを縫ってくれただけではなく，まる子のことを気にしてくれているのですね。
（黄色で「気にしてくれている」と書き，お母さんからまる子への矢印を書き加える）
○お母さんが夜，大変なのにぞうきんを縫ってくれて，病気になった時，まる子はそのことに気づいたのですね。
・そう。当たり前のことが当たり前ではないということに気づいた。
○へえ！　どういうことですか。
・だから，お母さんがまる子のためにぞうきんを縫ったり，ご飯を作ってくれたりするのは，当たり前のことではなくて，本当はありがたいこと。
○なるほど，みなさんが初めに言った「ご飯を作ってくれる」というのも，ありがたいことなのですね。だから，みんなはそれを家族のよさと言ったのですね。
※うん，うんとうなずく子どもたち。実は初めはそこまで考えていなかったはず!! このタイミングで，導入時の子どもたちの発言を確認する。
○では，初めにみなさんが言った家族のよさが，まる子ちゃんの家にもあるかどうか，考えてみましょう。
○お兄ちゃんがいつも抱っこしてくれる。これはどう？
・まる子にはお兄ちゃんがいないから，ない。
・でもいつも気にしてくれているということは同じなのではないかな。
○なるほど，家族でそれぞれやり方は違うけれど，大切に思ってくれているということは同じなのですね。
※「大切に思っている」と板書。
○ということは，みなさんが初めに言った７つのことは，全部まる子ちゃんの家族にも当てはまるわけだ。
・うん，そう。
※７つを矢印でまる子の家族につなげる。
・だから，まる子はくず湯を作った。
・泣きながら眠った。
○ここでまる子からもお母さんに矢印が出るわけだ。
※「くず湯」の矢印を板書。
○気づいていなかったまる子が，気づいたのですね。
・ありがたいなと思った。
※「ありがとう」と板書。
○この「ありがとう」をもう少し詳しく付け足してくれないかな。
・ぞうきんを作ってくれて。
・大変なのに。
・いっしょにいてくれて。
・いつも支えてくれて。
・いつも大切に思ってくれて。
※それぞれを板書。
○なるほど，たくさんの想いが膨らんできたわけだ。
・だから泣きながら眠ったんだ。
○よく考えてきたね。今だったら，みなさんは家族のよさは何ですかと聞かれたらなんて答えますか。
・かげで支えてくれている。
※「家族のよさ」と黒板の真ん中に朱書きし，「かげでささえてくれている」と板書。
○今日の感想を書いてください。これで授業を終わります。

4．子どもたちの感想

・いつもいろいろなことをしてくれているのに，気づいていなかった。ありがたいと思う。家族のよさはこれ→【かげでささえてくれる】
・お母さんがいろいろしてくれているから，もっと思いを強くして，思い切り「ありがとう」と言いたいです。

5．授業後の考察

子どもたちは，ちびまる子ちゃんの話ということで興味をもって学習に臨むことができたようである。しかも，まる子ちゃんの家族と自分の家族のよさがどんどんつながっていくことで，より親近感をもって学習を進め，「どの家族にも共通するよさ」を見つけ出すことができた。

ここで気をつけたいのは，人気アニメを資料化したから子どもたちが意欲をもって学習を継続できたということではないということである。そのような「つかみはOK！」的な資料の扱いは，往々にして頓挫する。例えば，自分の好きなアニメの話になったり，この話の回を見たことがあるとかないとかとなったり，関係のないことで話が盛り上がり，結局，話し合いの観点がぶれるのである。

だからこそ，導入で子どもたち自身に予想させ，それと照らし合わせる形で授業を進めることに意味があるわけである。

光文書院の副読本に初登場のまる子ちゃん，ぜひお試しあれ！